

5月の特別支援

いきなり「リバウンド」!?

5月といえば、やはりゴールデンウィークですね。怖いですね。なぜかというと、4月中に先生方が子どもたちと心を通わせ、こまやかに支援し、ようやくクラスに「秩序と安定」が訪れたかと思いきや、休み明けの教室に入ると、ワサワサ状態がリバウンド(?) していて、4月前半よりひどくなっているのではないかと感じることもさありますよね。「また最初からやり直し?」とがつくりしてしまいます。同様の現象は月曜日などにも起き、学校では、「魔の月曜日」などと呼ばれることもあります。

わつとサポーター
45

フサフサしそつなときは、
こちらから先にポジティブ
な暗示をかける

例えば、「おつ、みなさんの協力で静かに授業が進められそうですね。サトルさん、いい姿勢ですよ」といった具合に、

でも、4月の「信頼関係づくり」と

「ルールづくり」、この二つの基本がおさえられていれば、だいじょうぶ。「穏やかなクラス」の種は先生方によってすでに蒔かれています。ほどなくクラスは安定してきますのでご安心を。ただし、いくつか支援のポイントがあります。

わつとサポーター
46

授業の導入場面では、具体物を提示して視線を引きつける

子どもたちの注意を引きつけるこんなアイテムもあります。

9
サツとツール

「見て!」カード

授業のポイントとなる場面で、「見て!」と書いたカードをタイミングよくサツと出して、子どもたちの注目を引き

10
サツとツール

チューモク棒
(内田洋行)

人差し指で指している手の形をした、



カラフルな指差し棒です。注目を喚起します。発表するときに子どもたちに持たせても楽しいです。

11 サッとツール

ボイスチェンジャー

時にはこんな遊び心もいかがでしょう。子どもたちが注目すること請け合いです。

47 わっつとサポーター

最近の話題を取り入れて「おやつ？」と思わせる

ただし、子どもの間で流行っているような話題の場合、しっかり把握しておかないとボロが出て、「なんだよ、期待させといて、先生ほんとは知らないんじゃない。ウケようと思ってよ」なんて、かえって子どもの信頼を失ってしまうこともありますのでご用心。

本領発揮（？）の子どもたち

さて、先生方が「学級リバウンド」の危機から脱したころ向き合うのは、担任に慣れ、クラスに慣れて本領を発揮した

す、やんちゃな子どもたちです。

例えば、昨年度の申し送りで、前担任から「配慮が必要」と言われてマークしていたカズさん。4月中は、「おや、気をつけるなんて前担任は言ってたけど、カズさんは子どもらしいし、甘えてくるし、自分とは案外いけるかも」なんてすっかり安心していました。それが5月に入るや他の子とトラブル頻発、先生にも「うるせえ！」なんて言ってきたりするようになります。

5月の目標は

「先生がキレないこと」

トオル先生「宿題はどうした？」

カズさん「おら、知らねえ」

トオル先生「ノートは？」

カズさん「わかんねえって言ってるだろ」

トオル先生「誰に向かって言ってるんだ！」

カズさん「人間！」

こんな会話が展開することがありますね。ここで毅然と叱るのもいいですが、

どうぞ「キーツ！」っとキレるのだけは我慢してください。ほら、クラスの子たちがじーっと先生の対応を見ていますよ。

内心「今年の先生はこういう感じか、こう来たか」「カズに口で負けて、動揺しているぞ」なんて、先生をリサーチしています。カズさんだけでなく、クラスのみんなが先生を評価しているのです！

さて、このような場面でみなさんはどのような対応をなさいますか？ いくつかのプランを提案しますが、先生の持ち味によって実際はかなり違ってきますので、それぞれ自分流アレンジにチャレンジしてください。

48 わっつとサポーター

強く、短く叱る

長く説教しても、注意集中が苦手な子の場合、聴覚からの情報が保持できず、聞いていられないこともあります。ポイントを絞りましょう。

49 わっつとサポーター

意図的に「見過ごす」

先生に叱られることでかわりを求め

てくるタイプの子には、時に見過ごすことが大切です。ただし、本人や他の子にとって危険な行為などは、決して見過ごしてはいけません。

50

時にユーモアで切り返す

例えばこんなふうです。

ケンさん「うるせえ、くそババア」

ユウコ先生「よかった、くそジジイじゃ

なくて。私を女と認めてるってこと

よね」

ケンさん「えっ……むむ」

「先生は『もう許さない』ってよく言うけど、いつも結局カズのこと許してるじゃん」

こんな言葉に、ハッとしたことはありませんか？ 高学年にもなると、先生が子どもを見ているというよりは、先生が絶えずクラスの子から「見られて」いるのです。特に感情的になったとき、先生の人間性が試されます。

51

岩のいっく、ゆがらない

最初はカッとして、強く指導するのに、だんだん子どもの理屈や激しさに押され、最後にはゆずってしまふ先生がいます。「最初の勢いはどうしたの？」といった感じです。

叱ったことがその子に染み込むには、子どもとの信頼関係が十分築かれていなくてはなりません。もし、「もう一押し」という段階なら、強く叱るよりは断固ゆずらない姿勢で。

そして子どもに媚びないことです。

先生こそ約束を守ることが大切

では、子どもたちが、「この先生は信頼できる」と思えるのはどんなときでしょう。それはやはり、「先生は私たちとの約束を守ってくれる」という体験の積み重ねです。

特に発達障がいを持つ子は、「自分との約束」を先生が覚えていてくれるかどうかにとっても敏感です。どうかそんな子

52

守れない約束は絶対にしない

どもたちに、「自分では教師との約束を破るくせに！」とおっしゃらないでください。彼らの多くは、約束を破りたくて破っているわけではないのです。

むしろ「君は私との約束を忘れちゃったかもしれないけど、私は覚えているよ。君のことが大事だからね」と言ってあげられる先生は、子どもから信頼されるに違いありません。

しかし、安易な約束は禁物です。例えば、いじめられている子が学校を休むようになり、家庭訪問した担任が「先生が絶対に守ってやるから学校に来い」と言うことがあります。でも、実際24時間傍にいてあげるわけにはいきません。登下校時、トイレで、教室を移動する場面で、校庭で、いついじめられるかわからないのです。

もし先生の目の届かないところでその子がまたいじめられたらどうでしょう。「やっぱり先生は信用できない！」と、その子は一生の傷を負うことになります。

先生が子どもたちの心を裏切れば、子どもたちは先生の思いを裏切るようになるのです。

「遠足」での支援

さて、5月に電車に乗ると「遠足」に向かう子どもたちを見かけます。「遠足」は学校生活の中でも特に楽しい思い出を残せるチャンスかもしれません。

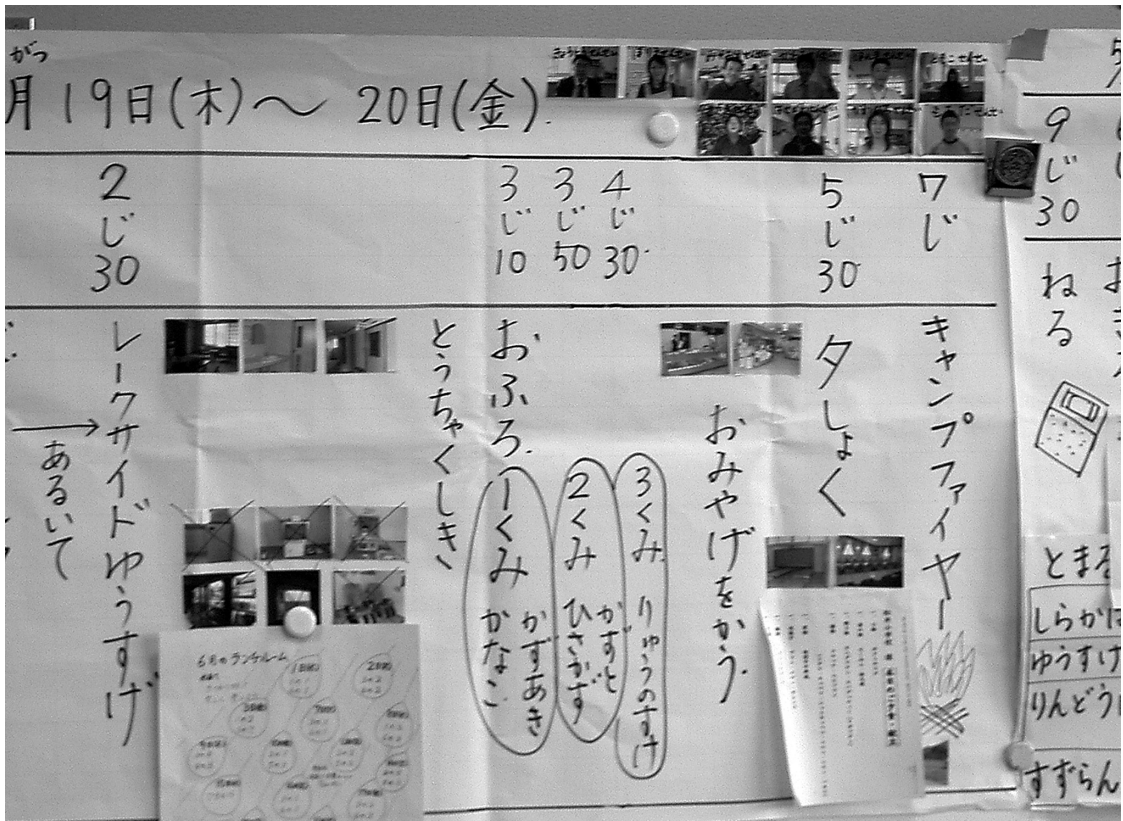
ところが、予想できない状況や新しい場所に不安を感じる子、うれしすぎてハイテンションになってしまいう子など、「遠足」で支援が必要な子はたくさんいますね。

そこで、西埼玉LD研究会で実践しているいくつかのアイデアをご紹介します。

12
サツとツール

写真入り タイムスケジュール

新しい経験が苦手な子どもたちのために、写真入りのタイムスケジュール表を用意します。これを子どもたちに見せて、「心のリハーサル」をさせるのです。



先生が下見に行ったときに、ポイントとなる建物や場所をデジカメで撮っておき、当日の流れを上写真のように掲示します（上の写真は宿泊学習のものです）。引率する先生方の写真も添えておく（上の写真では一番上に並べてあります）とよいでしょう。

この写真では小さくてわかりづらいのですが、行った先が野外でもトイレがあることなどを写真で示しておく、落ち着ける